

関西の目指すべき目標（事務局整理）

（1）地方分散の受け皿となり幸福を実感できる関西

① 都市や多自然地域の双方の魅力を享受でき、いずれの地域でも心豊かな暮らしを実現する関西

＜都市・多自然地域（共通）＞

- ・ 東京を頂点としたピラミッド型の考え方、効率性や経済性のみを重視するのではなく、心の豊かさなどを尺度とする考え方を関西の基本とし、家族や地域の絆を育むコミュニティのなかで、関西に住む一人ひとりが、「幸福を実感し、心豊かに暮らす圏域」を形成する。
- ・ 50年後の人口1億維持目標にはこだわらない立場をとりつつも、関西圏域には引き続き相当規模の内需が存在するということを想定して、地域づくりを実践し、ローカルな視点で、「地域経済の循環システムが確立された圏域」を形成する。

＜都市＞

- ・ 自治体ではなく、人に焦点を当て、一定の密度を保つために、住宅をどう提供していくかという視点をもとに、居住の流動性を高めた都市と農村、都市と都市の「交流・連携圏」を形成する。
- ・ 課題が多重化する人口10万人程度の都市について、隣接する地域との連携を検討するなど、有効な都市対策を打つ「戦略的な都市再生圏域」を形成する。
- ・ 農林業分野において、多自然地域で多くの先進事例が出ている。例えば、地域づくりを担うNPOの逆指名によって、移住してきた者がはじめたカフェ、ピストロ、ピザ屋などで賑わう徳島県の神山町や、牧場直結のカフェ運営などで賑わう鳥取県の八頭町などにおける6次産業化の取組を踏まえ、都市部の取組を考えるなど、都市部は多自然地域から学ぶ時代が来ている。多自然地域の動きを的確に捉え「各地域が主体的にまちづくりに取り組む圏域」を形成する。

＜多自然地域＞

- ・ 高まる田園回帰志向を背景に、例えば、ITCを活用した企業誘致等で若者の移住が進む徳島県の神山町など、多自然地域で多くの先進事例が出ている。このような事例が各地域に連鎖的に広がる「各地域が主体的に地域づくりに取り組む圏域」を形成する。
- ・ 雇われない生き方、新しい働き方を試行し、多自然地域に移住するという若者の動きが加速している。社会的な課題をローカルなコミュニティをベースに解決していくような新たな価値観を持つ世代が、地域で存在感を高めている点に注目し、コミュニティビジネス、ソーシャルビジネスによる起業が自発連鎖する「若者を核として地域が活性化する圏域」を形成する。

② 地域づくりを担う人材育成が好循環する関西

- ・ 各地域の主体的な地域活性化を実現するため、地域との連携を強め、地域政策の中に大学を組み入れるなど、大学教育等の充実を図ることにより、「地域づくりを担う人材の育成を図る圏域」を形成する。

③ 少子・高齢化に伴う人口減少を乗り越える関西

- ・ 50年後に人口1億人を維持するといった数字による目標にこだわることなく、子どもを産み育てることに喜びを感じる暮らしを実現し、東京ではできない「高い出生率を実現する圏域」を形成する。
- ・ 子どもを産み育てることに喜びを感じる暮らしの実現には、長時間労働をはじめとする課題を克服し、家族がともに過ごせる時間、中長期的なビジネスの成功においても重要なオフの時間の確保等が重要である。ワークライフバランスに取り組む地域の中小企業に光を当て、地域雇用の場を広げることなどにより、「ワークライフバランス実践圏域」を形成する。

④ 安全・安心のしくみが確立された関西

- ・ 南海トラフ巨大地震、首都直下型地震発生時の甚大な被害、ゲリラ豪雨などの異常気象がもたらす被害など、安全・安心を脅かす災害が続出している。南海トラフ巨大地震が起こった場合の復興シナリオを描いておくなど、これらに適切に対応できる「安全・安心の基盤やしくみが確立されている圏域」を形成する。

(2) 国土の双眼構造の一翼を担う世界に開かれた関西

① 東京との関係ではなく、世界に開かれた関西

- ・ グローバルな視点で、東京ではなくアジアとの関係で関西を捉え、世界的な大学・研究機関等の連携による産業クラスターの形成により、アジアのメガリージョンと伍していく「関西独自の産業圏」を形成する。
- ・ 世界的に価値のある歴史・文化遺産や多様な地域資源等を結びつけ、“人”をひきつける関西の魅力を創造するとともに、これらを支える基盤を構築し、世界へ発信する「創造都市・創造農村が点在する観光・文化圏」を形成する。

② 世界で活躍できる高度人材を輩出する関西

- ・ 質の高い産業振興を実現するため、大学生の学力低下も踏まえ、中学・高校教育といった地域の教育力の向上や、大学院のさらなるレベルアップなど高等教育機関等の充実を図ることにより、世界で活躍できる人材の育成を目指し、関西経済の発展に不可欠な「高度人材の育成等を図る圏域」を形成する。

③ 国土の双眼構造の一翼を担う関西

- ・ 東京一極集中を打破し、関西と関東の双方に政治、行政、経済の核が存在する国土の双眼構造への転換を目指し、以下の圏域を形成する。
 - 政治、行政、経済など「首都機能のバックアップ拠点を担う圏域」
 - リニア東京・大阪間全線同時開業、関西が西日本の交通結節点（ハブ）となる北陸、山陰、四国新幹線の実現など、東京に匹敵する徹底した「広域インフラネットワーク」を形成。